

風水害に備えよう

平成30年7月豪雨や令和元年台風第15号など、近年台風などによる大雨・暴風の被害が各地で発生しています。台風や大雨は発生や規模が事前に把握することがある程度可能であり、被害を少しでも抑えるためにも、事前の備えを十分に行っておくことが大切です。

避難の考え方

避難とは「難」を「避」けることであり、**避難場所に行くことだけが避難行動ではありません**。安全な場所にある親戚や友人宅も避難先としておくなど、事前に避難場所を検討しましょう。

また、避難は自らの判断で行動することが原則です。避難指示等が出されていなくても「自らの命は自らで守る」という考え方のもと、**危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう**(P23参照)。

日頃の備え

ハザードマップを活用し、土砂災害や洪水、高潮など自宅の災害の危険性を確認しましょう。

また、高台や垂直避難施設など近くの避難場所を事前に決めておきましょう。

いざ屋外へ避難する際の必要最低限の持出品を用意しておきましょう。

地震用の持出品袋と最低限必要なものは基本的には同じなので、どちらでも活用できます。

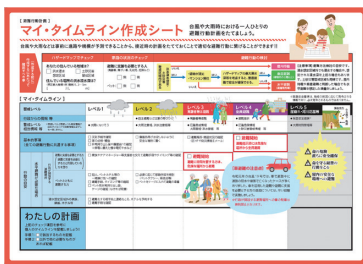
※風雨に備えカッパを用意しておくことも有効です。備蓄品、非常持出品の考え方については⇒P10参照



マイ・タイムラインを作成しましょう

マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画のことです。

作成シートと防災の地図を用意して一人ひとりのマイ・タイムラインを作成しましょう。



横浜市
マイ・タイムライン

横浜市 マイ・タイムライン

検索



ペットの飼い主は一時預け先を確保しておきましょう

災害の規模や施設によっては、風水害時の避難場所は決してペットにとって最良の場所とは限りません。また、雨風がひどくなってからのペットを連れての避難(ペット同行避難)は非常に困難であることが予想されます。

大切なペットのためにも、ペットが慣れている知人、動物病院、ペットホテルなどにペットの一時預け先を事前に確保しておくことが大切です。

※「災害時のペット対策～ペットとの同行避難ガイドライン」P12参照



防災よこはまの活用

対策の参考となるページを見て、事前に備えましょう。

風水害

風水害への
事前の備え!

警戒レベルと
避難の考え方を
学ぶ!

P21~P24

雷

雷鳴が聞こえて
きたら?

遭遇した場合と
安全な空間に避難
できない場合の
対処法!

P25

竜巻

いつどこで
発生するか
予測できない?
予兆と避難行動を
知る!

P26

大雪

不要不急な外出を
避ける!
大雪が降った時の
安全な
過ごし方とは?

P26

火山

降灰による
様々な影響!

事前の準備と
実際に降灰があった
場合にとるべき
行動とは?

P27

避難情報等を発令する際に参考とする気象情報

警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3 相当情報	警戒レベル4 相当情報	警戒レベル5 相当情報
大雨になりそう 早期注意情報	大雨注意報 洪水注意報 等	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報 等	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 等	大雨特別警報 氾濫発生情報 等
				
心構えを 高める	避難行動の 確認	危険な場所から 高齢者等は 避難 避難に時間を 要する人は避難	危険な場所から 全員避難!! 安全な場所へ	【災害発生】 崖崩れ 河川氾濫 等 命を守る 最善の行動

※メディア等で提供される「警戒レベル相当情報」とは、気象庁が発表するものであり横浜市が発令する警戒レベルではありません。

警戒レベルに応じた避難行動等

警戒レベル	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3 危険な場所から 高齢者等は避難	警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	警戒レベル5
避難行動等	災害への心構えを高 めましょう。	避難に備え、ハザード マップ等により、 自らの 避難行動を 確認 しましょう。	避難に時間を要 する人(高齢者、障 害者、乳幼児等)と その支援者 は避難 を開始しましょう。 その他の人は、避難 の準備を整えましょ う。	速やかに安全な場 所へ避難をしましょ う。 避難場所までの移 動が危険と思われ る場合は、近くの安全 な場所への避難や、自 宅内のより安全な場 所に避難をしましょ う。	既に 災害が発生し ている状況 です。 命を守るための最 善の行動 をとりま しょう。
避難情報等			高齢者等避難 (横浜市が発令)	避難指示 (横浜市が発令)	緊急安全確保 ※必ず発令されるもの ではない (横浜市が発令)

※警戒レベルは必ずしも段階的に発令されるわけではありません。避難情報を守ることなく、危険と感じたら自身の判断で避難を開始してください。

※警戒レベルについて詳しくは、内閣府ホームページをご覧ください。

避難情報に関するガイドライン



風水害時の避難行動（避難のサイン）を確認しましょう

小石がバラバラ落下するなどの崖崩れの前兆現象や、下水道などからの浸水、河川の氾濫情報、警戒レベル3（高齢者等避難）、警戒レベル4（避難指示）といった【避難のサイン】を参考に、「**自らの判断**」で「**自らの命は自ら守る**」という考え方のもと、**危険がせまる前に早めに避難を開始しましょう。**

避難のサイン（情報は早めに!）

下水道などからの浸水

河川氾濫の危険

- テレビ・ラジオ・横浜市ホームページなどで気象情報に注意しましょう。
- 横浜市ホームページなどで河川の状況を確認しましょう。
- 外の様子に注意しましょう。
※側溝やマンホールから大量に水があふれる。

土砂災害の危険

- 小石がバラバラ落下
 - 斜面に湧水が発生
 - 斜面に亀裂が発生など
- 崖崩れの前兆現象**

警戒レベル3（高齢者等避難）、
警戒レベル4（避難指示）など

が、出たら…

避難行動（早めに行動!）

安全な場所へ避難

（指定緊急避難場所等の避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域及び浸水想定区域外の親戚の家など）



水平避難
（立退き避難）

頑丈な建物の2階以上 または、近隣の 高い建物へ避難



垂直避難

やむを得ない場合は建物内の少しでも安全な場所へ退避

（夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合）



垂直避難

水平避難

危険性に応じた避難行動をとりましょう

- ① ハザードマップを活用し、ご自宅や周辺の災害の危険性（土砂災害、洪水、高潮の危険）を確認します。
- ② 災害の危険性や浸水深等を考慮し、開設された避難場所や、危険な区域外の親戚の家などの避難場所へ避難するか、自宅での垂直避難で大丈夫かを確認します。
- ③ 近くの避難場所（高台や垂直避難施設）を事前に確認しておきます。
- ④ 危険を感じた場合や、警戒レベル3（高齢者等避難）、警戒レベル4（避難指示）が発令された場合には速やかに避難を開始します。
- ⑤ 停電に備え、懐中電灯やラジオを用意しましょう。

風水害時の避難場所について

- 風水害時の避難場所の開設は、災害時、行政が避難指示等を発令する場合に、災害規模や状況に応じて決定し、各区ホームページ等でお知らせするほか、テレビのテロップにおいても流れます。

横浜市 風水害 避難場所

検索



指定避難所と指定緊急避難場所

- 指定緊急避難場所は、切迫した災害の危険から一時的に逃れるための場所で、「洪水」、「土砂災害」、「高潮」、「地震」等の災害の種別ごとに、地域防災拠点である市立学校等を指定しています。ただし、災害の規模や被害状況等により、地区センター等の公共施設や自治会館などを避難場所として開設する場合があります。
- 指定避難所は、災害によって自宅に住めなくなった場合などに避難生活を送る場所です。横浜市では地域防災拠点である市立学校等を指定避難所として指定しています（P17参照）。
「指定緊急避難場所」や「指定避難所（地域防災拠点）」の位置や避難経路を把握しておきましょう。

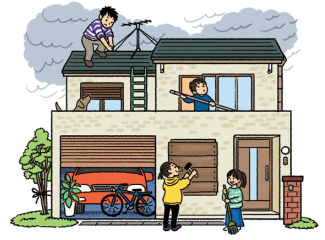
横浜市 指定緊急避難場所 指定避難所

横浜市 指定緊急避難場所 指定避難所 検索



台風への備え

台風は事前に備えができる災害です。接近してからではなく、普段から対策に取り組みましょう。テレビのニュースなどで台風の進路を確認しましょう。



■ 家の外の備え

- 側溝や雨水ますの掃除をし水はけをよくする。
- 飛ばされそうな物の固定や撤去をする。
- 屋根や塀、壁の点検、補強する。
- 土のうや止水板を持っている場合は、直ぐに設置できるよう準備する。

※台風とは、熱帯の海の上で生まれた低気圧です。その熱帯低気圧のうち、最大風速(10分間平均)がおよそ17m/s以上のものを「台風」と呼びます。

土砂災害への備え

避難は各人の判断で行動することが原則です。避難指示が出されなくとも「自らの命は自らで守る」という考えのもと、危険がせまる前に早めに避難を開始してください。

横浜市では、崖崩れが発生した場合に人家に著しい被害を及ぼす可能性がある崖地をあらかじめ抽出し、その周辺地域(即時避難指示対象区域)に対して、「土砂災害警戒情報」の発表とともに「避難指示」を発令します。

避難のサイン

- 小石がパラパラ落下
- 斜面に湧水が発生
- 斜面に亀裂が発生など



- **安全な場所への避難**(開設された避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の知人の家など)

安全な場所へ避難が困難な場合には、下の二つの避難方法がある

- 頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難
- 建物内の安全な場所で避難(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)



土砂災害ハザードマップ

横浜市 土砂災害ハザードマップ 検索



即時避難指示対象区域について

横浜市 台風・大雨への備えについて 検索



浸水害への備え

横浜の市域は市街化の進展により、大部分がアスファルト道路等に覆われ、雨水が地中に浸透しにくくなっています。このため、集中豪雨等により河川や下水の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水の危険が高まりますので、雨の降り方には十分注意し、早めの判断・行動を心がけましょう。

■ 地下施設

地下街や半地下住宅、地下駐車場などは急に水が流れ込んでくる可能性があります。避難できずに閉じ込められないよう、早めに避難しましょう。



■ アンダーパスなど



アンダーパスや低地では冠水し車が水没する等の危険があります。

大雨の際の通行は避けるようにしましょう。

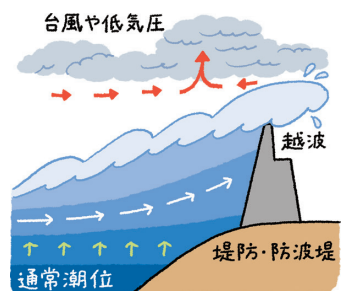
■ 内水



内水ではマンホールからの水の流出、住宅・道路の浸水や冠水などが起きます。既に大雨や浸水の場合は無理に避難をせず、自宅や近隣の頑丈な建物の上部に垂直避難をしましょう。

■ 高潮

高潮とは、台風や発達した低気圧に伴って、海岸で海面が異常に高くなる現象です。既に高潮が発生し、浸水が生じていたら、より高い場所へ避難しましょう。



● 洪水ハザードマップ・内水ハザードマップを活用して、避難するときの行動や日頃の備えを確認しましょう

洪水ハザードマップ

横浜市 洪水ハザードマップ

検索



内水ハザードマップ

横浜市 内水ハザードマップ

検索



地域での取組

まち歩きなどを通じて、地域の危険箇所を事前に確認しておきましょう。

そして、避難行動や防災情報等の周知、垂直避難施設への協力の確保に努めるとともに、高齢者や子ども、障害者への地域での助け合いについて心がけましょう。



雷に備えよう

雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づいてきているような場合には、落雷が差し迫っています。速やかに安全な場所へ避難しましょう。

雷に遭遇した場合

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グラウンドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。

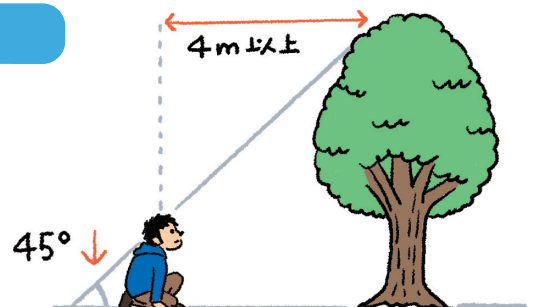
鉄筋コンクリートの建築物、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。

また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れればさらに安全です。（出典：気象庁ホームページ「雷から身を守るには」）



安全な空間に避難できない場合

近くに安全な空間がない場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動がやみ、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。（雷から身を守るには —安全対策Q&A— 日本大気電気学会 から引用）
（出典：気象庁ホームページ「雷から身を守るには」）



竜巻に備えよう

竜巻は、積雲や積乱雲に伴って発生し、大気中の渦巻きが地上に達しているものです。竜巻が発生した場合、住家の屋根がはぎとられる、大木が倒れるなど、大きな被害をもたらす可能性があります。いつ、どこで発生するか予測が困難な気象現象です。

真っ黒い雲が近づくなど天気の変遷を感じたとき、竜巻注意情報などの情報を得たときは、次のことを参考にして、自分自身の身を守る行動をとってください。

竜巻の予兆

- 真っ黒い雲が近づき、周辺が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。



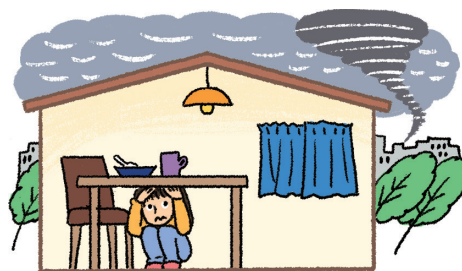
避難行動

■ 屋外にいるときは…

- 近くの頑丈な建物に避難する。
- そのような建物がなければ、飛散物から身を守るような物陰に入って身を小さくして頭を守る。
- 倒壊する可能性があるため、電柱、太い樹木に近づかない。
- 物置、車庫、プレハブ(仮設建物)に避難しない。

■ 屋内にいるときは…

- シャッター、窓、カーテンを閉め、窓から離れる。
- 2階建て以上の住宅では、1階の窓のない部屋に移動する。
- できるだけ家の中心部に近い窓のない部屋に移動する。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。



■ その他

- 「竜巻発生確度ナウキャスト」を確認する。
- テレビ・ラジオ等による情報を収集、確認する。

大雪に備えよう

大雪が予想される場合には…

■ 在宅時の安全な過ごし方

- 大雪が予想される場合には、不要不急な外出を避けましょう。
- 事前の備えとして自宅に懐中電灯、携帯ラジオ、食糧、飲料水等を準備しておきましょう。
- 一酸化炭素中毒防止のため、FF式暖房機の給排気口付近が雪で塞がれないように注意しましょう。
- ご近所の高齢者等の配慮が必要な人には積極的に声かけしましょう。

■ 車両の運転

- 大雪が予想される場合には、できる限り車両の運転は避けましょう。また、やむを得ず車両を運転する場合は、次のことに注意しましょう。
- 事前の気象情報、道路情報等の確認をしましょう。
 - 車両の点検整備を確実に実施しましょう。
 - 防寒着、長靴、手袋、カイロ、スコップ、牽引ロープ、飲料水、非常食等を準備しましょう。
 - 道路状況に応じた無理のない運転、スタッドレスタイヤやタイヤチェーンの早期装着をしましょう。
 - 立ち往生してやむを得ず車を離れる場合にはドアをロックせず、キーを車内のわかりやすい場所に残しましょう。



除雪を行うときには…

作業時の家族・近所への声かけ、準備運動の実施、複数人での作業など、除雪作業中の安全対策を図りましょう。また、高齢者が無理をすることなく除雪できるよう地域で助け合いましょう。

火山災害に備えよう

横浜市周辺には、富士山をはじめとして、箱根山や伊豆大島など、複数の活火山があります。本市においては、主に富士山が噴火した場合に、溶岩流や噴石等による被害はありませんが、「火山灰」の降下(降灰)による影響が予測されています。普段から情報を収集し、噴火警報・予報や降灰予報などの情報を得たときは、自分自身の身を守る行動をとりましょう。

降灰によって考えられる主な影響

健康被害

- 火山灰が目に入ったり、大量に吸い込んだりした場合、目・鼻・のど・気管支に異常が出たり、ぜんそくの症状が悪化するおそれ
- 火山灰の刺激による皮膚の痛みや腫れ

日常生活への影響

- 雨水を含んだ火山灰の重さによる家屋等への被害
- 火山灰が道路に降り積もることによる車のスリップ事故や通行不能
- 停電や断水の発生
- 電子機器の故障
- 農作物への被害



降灰に備えた準備

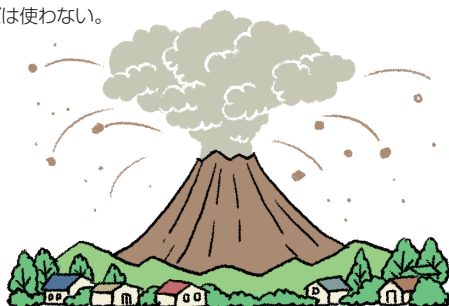
災害に備えた備蓄品・非常持出品(P10参照)に加えて次のものなどを準備しましょう。

- 防じんマスク、ゴーグル
- 清掃用具(ほうき、シヨベルなど)



降灰があった場合にとるべき行動

- 防じんマスク、ゴーグル(または眼鏡)を着用する。
※目への刺激を防ぐため、コンタクトレンズは使わない。
- 灰が目に入ったら、手でこすらずに水で流す。
- 長袖、長ズボン等を着て、皮膚を守る。
- 交通事故に気をつける(降灰量によっては、外出や運転を控える)。
- ドアや窓を閉め、建物の中に灰を入れないようにする。



火山灰の清掃をするときには…

- 防じんマスクやゴーグル(または眼鏡)を着用しましょう。
- 火山灰が風で巻き上げられるのを防ぐため、事前に積もった火山灰を水で湿らせませす。ただし、濡らしすぎると灰が重くなり、清掃が困難になったり、家屋に荷重がかかったりするため、注意が必要です。
- 家族、近所へ声かけをして、地域で助け合いながら清掃しましょう。

富士山の噴火

富士山は、活火山であり、幾度も噴火等の火山活動を繰り返しています。1707(宝永4)年に大規模な噴火が発生して以来現在までの300年ほどは比較的静かな状況が続いていますが、今後、それと同規模又はそれを上回る噴火の発生可能性も否定されていません。また、噴火の発生間隔に明確な規則性がないことから、将来の発生時期を予測することも困難であるとされています。

宝永噴火と同程度の大規模噴火が発生した場合、本市付近においては、降雨時に土石流の発生する可能性が高くなる10cm程度の堆積が予測されています。

降灰量(積もった厚さ)	規模	想定される被害など	対処法
64cm	極めて大量	60%の木造家屋が全壊	堅固な建物に避難
50cm		30%の木造家屋が全壊	
32cm		降雨時、30%の木造家屋が全壊	
30cm	大量	降雨時、木造家屋が全壊するおそれあり	危険があれば避難
10cm	極めて多量	降雨時、土石流が発生	屋内退避
5cm		道路が通行不能	
2cm		何らかの健康被害が発生するおそれあり	
1mm以上	多量	車の運転は控える	外出を控えて窓を閉めるか、マスクなどで防護
1mm未満	やや多量	車は徐行運転となる	
0.1mm未満	少量	車のフロントガラスに灰が積もる	

気象庁(火山に関する情報や資料の解説)

気象庁 火山に関する情報や資料の解説

検索



防災科学技術研究所(火山灰による健康被害)

防災科学技術研究所 火山灰

検索



ワークシート(風水害等編)

マイ・タイムライン

マイ・タイムラインを作成する前に確認しよう!

■ ハザードマップでチェック

● 自分が住んでいる地域は?

- 洪水浸水想定区域** (大量の水があふれ出し、水浸しになりそうな区域)
- 土砂災害警戒区域** (大雨警報が発表されているとき、崖崩れなどの災害がいつ起きてもおかしくない区域)

● 住んでいる場所の洪水によってあふれる水の深さ(浸水深)は?

(例) 鶴見川 3~5m

[川 m]

マイ・タイムラインをつくろう!

<p>警戒レベル</p> <p>気象警報、避難情報など</p>	<p>警戒レベル1</p> <p>大雨になりそう</p> 	<p>警戒レベル2</p> <p>大雨注意報が出た! 自主避難など注意の呼びかけ</p> 
<p>避難行動のヒント</p>	<p>みんなが実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 天気予報の確認 <input type="checkbox"/> 家族と一緒に避難行動を確認 <input type="checkbox"/> 避難するときの持ち出すものを確認 	<p>避難場所などに避難する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 高齢者や子ども、ペットがいたら家族と話して、どうやって避難するか決める
<p>自分の行動</p> <p>「避難行動のヒント」を参考にして、自分のタイムラインを書き込もう!</p>	<p>(例) 天気予報やハザードマップを見て、今後の行動を確認</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>	<p>(例) 家族の分の持出品を確認</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

地震編

風水害等編

情報収集編

共助編
～普段から地域でつながりあっています

